

三四郎が熊本から東京の大学に入る上京の車中じゃった。京都から乗り込む女に「あんたも名古屋で降りらすとなら宿屋に案内してくだっせ。一人じゃ気びん悪かけん」と頼まれた。その汽車は名古屋止まりじゃん。三四郎もそけ泊まる積もりじゃったばって「はあ」ちゅて生返事しといた。

女は子持ちで、亭主が満州に出稼ぎに行たまま、生死不明ちゅて、隣ん爺さんに話しよつとば耳にしとったばって、三四郎は京大阪に近付くにつれて、女が色ん白うなつてくつとに、だんだん故郷の遠うなつとん寂しゅう感じたけん、こん女ん色ん黒さに、おおこりゃ九州色ばいなて、異性ん見方ば得た気持ちにきゃあなつたつたネ。

夜ん十時過ぎ、名古屋で降りたりゃ、後ろから女がちいて来る。駅前のふとか旅館の前ば過ぎて横丁のこまか宿にひゃーつた。

女は連れじゃなかつちゅて断る暇もなかつちゅて、二人はとおつ部屋に通されてしもた。三四郎が風呂にひゃーつとつたりゃ「ちょこつと、流しやっしゅうかい」ちゅて裸ん女がひゃーつてきたもんじゃけん、慌てて三四郎は跳びじゃーた。

女中が床ば延べぎゃ来たばって、そりが、一つじゃもん。二つ敷くちゅうばって、蚊帳ん狭かけんちゅて、相手にせん。

窓際で団扇ば使うつたりゃ、女は、「お先に」ちゅて、横になつた。三四郎は窓際でいっそんこて、こんまま夜明かししゅうかねともおもたばって、蚊のブンブン来てどもこも凌ぎきらん。鞆からタオルば二本持ちじゃーて、蚊帳ばくぐり「失礼ですばって、私ゃ極端な神経質ですけん」ちゅて女に謝つて、あいとる片一方ん敷布ば、女ん寝とる方さん端からくるくる巻ゃーていたて、布団の真ん中に仕切りば作つて、その後、自分のタオルば敷いて寝た。

翌朝、駅で、関西線で四日市に行くちゅう女と別るつ時、三四郎は帽子ば取つて「さいなら」ちゅうた。その顔ば女はじつと見とつたばって、間はのう、「あなたはよっぽで度胸んなか方せすね」ちゅうて、にやつと笑うた。

三四郎は、ぱんちゅて弾き飛ばされたごたる気持ちで耳ん火照つた。乗り込むでこもなつとつたばって、動きじゃーたりゃ、そつと窓から首ばじゃーた。女はもう遠にどこじゃい見えんごてなつとつた。

筋向かいん男が三四郎ばちらちら見とつたけん何か決まりん悪かつた。女ちゅうもんなあぎゃん落ちていて平気でおらるつとじゃろかい。大胆じゃいろ、無邪気じゃろか見当んつかん。思い切つて、もちつとやってみればよかつたて。ばって、恐ろしか。

そつて、最後に「度胸んなか」てやられたとは、二十三年の自分の弱点ば一遍にすばりと言ひ当てられたごたる。どこのだりじゃい分からん女に、こうもこつびどくどやされたたかと思うたりゃ気が滅入つた。

どうもあぎゃんうろたゆるようじゃ、駄目ばい。ばって自分にゃ、あれより他にやりようがなかつた。とすれば、むやみに女にゃ近づききらんこてなる。そりもどうも意気地なしで窮屈かごたる気のする。まっで、不具にでん生まれたごて…ちゅて、三四郎はここで氣ば変えて、別なこりから先んことば考えた。

東京の大学にはいる。有名な学者に接触する。趣味のよか学生と友達になる。図書館で研究をする。著作をやる。世間が喝采する。母が喜ぶ…などと勝手な未来を描いとるうちにさっきの男が自分の方を見とつとに気づいた。

髭が濃く、面長の瘦せぎすで、どことなく神主じみとる。鼻筋の通つたところだけが西洋臭か。白緋の下にちゃんと襦袢を重ねて、紺足袋を履いとつた。先ず中学校の教師と三四郎はふんだ。もう四十ぐりゃじゃろう。たいしたこたなか。自分はこれから大きか未来

を持つとる。

男はしきりに煙草をふかす。腕組みしたところはいかにも悠長に見ゆるが、えらい退屈そうにある。そりからだいぶん経ってから「君は高等学校の生徒ですか」と声を掛けてきた。「ええ…熊本の」と答えて、あとは言わずにいた。「そう」とだけ相手は煙草をふかしている。なぜ熊本から東京へ行くのかとは聞いてくれんじゃった。「あなたはどこへ」ときくと「東京」とゆっくりいったきりである。なんだか中学の先生らしくなくなってきたが、といって三等に乗っているくらいだからたいした者でないことは明らかだ。よほど退屈に見ゆる、しかしこの男の退屈は話したがるん退屈である。

豊橋に着いたとき、男は窓から水蜜桃を買うた。「食べませんか」と出されたので三四郎は礼を言って一つ食べた。男は桃が好きと見えてむやみに食べる。三四郎にももっと食べろと言う。二人が桃を食べとるうちにだいぶうち解けて、いろいろな話を始めた。

果物の中で桃が一番仙人めいとるとか、子規は大変な柿好きで、ある時大きな樽柿を十六食うたとか…好きなものには自然と手が出るものだとか、それが豚などは手が出ない代わりに鼻が出る。豚を動けんごて縛っというて、その鼻先にごちそうを並べとくと、鼻がだんだん伸びてくる…にやにやしながらの話だけん、真面目なのか冗談なのかわからん。